

埼玉県予防接種調査資料集作成にあたって

当調査は、感染症対策として各市町村の予防接種に関するデータを基に、生年別接種者割合や接種完了率等を解析しその結果を提供することで、各市町村の効果的な予防接種事業の実施に役立ててもらうことを目的として行っている。

本年度調査では、各市町村が令和6年度に実施した定期予防接種の接種者数を基に、各予防接種の生年別接種者割合及び生年別接種完了率について算出し、本資料集としてまとめた。

令和7年には、前年に引き続き、麻しん患者の発生が確認された。国立感染症研究所が公表している麻しん風しん定期予防接種実施状況の調査結果によると、平成22年度以降令和2年度まで全国の第1期麻しん風しんワクチン接種率は目標とする95%以上であったが、直近の2年を見てみると、令和5年度の接種率は第1期が94.9%、第2期が92.0%、令和6年度の接種率は第1期が92.7%、第2期が91.0%と目標の95%に達しない状況とされている。当該調査によれば、本県の麻しん風しんワクチン接種率は、平成30年度が第1期98.0%、第2期94.4%であったのに対し、令和5年度の接種率は第1期が94.1%、第2期が92.3%、令和6年度の接種率は第1期が92.9%、第2期が91.5%で、近年は第1期、第2期ともに目標の95%を下回る状況となっている。今回報告するこの調査結果の接種完了率で細かく現状を見てみると、令和6年度調査（令和5年度接種者が調査対象）における接種完了率は1期96.4%（令和3年生まれ児）、2期92.6%（平成29年生まれ児）、令和7年度調査（令和6年度接種者が調査対象）における接種完了率は1期96.6%（令和4年生まれ児）、2期91.7%（平成30年生まれ児）であり、第1期は95%を上回っているものの、第2期は麻しん風しん定期予防接種実施状況調査の接種率と同様に95%を下回っていた。流行国からの来県者数や帰国者数の増加がみられる今日、麻しん風しんワクチンの接種完了率の更なる向上が求められている。本調査の接種完了率の数値を参考にいただき、麻しん風しんワクチン以外のVPD（ワクチンで予防可能な感染症）も含め、県内において予防接種事業を通じた感染症予防対策をより効果的に推進していただきたい。

最後に、予防接種事業を推進するにあたり、御尽力をいただいている各関係機関の皆様方、データ報告の御協力をいただいている各市町村の担当者の皆様に深く感謝し、心からお礼申し上げますとともに、日頃各機関で実践されている予防接種事業の確認やその課題と評価に当たり、「令和7年度埼玉県予防接種調査資料集」を御活用いただきたい。